（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成３１年度 学校自己評価システムシート（県立新座柳瀬高等学校）　　w２４

目指す学校像	生徒一人一人の学力を向上させ、社会に必要とされる「人財」を育成する学校

重点目標	
	1　基礎学力の確かな定着と上級学校に進学できる学力をつける。
	2　規律ある態度と自ら考え行動することのできる心豊かな生徒を育成する。
	3　キャリア教育を充実させ、それぞれの希望に基づいた進路実現をさせる。
	4　教育活動の公開、保護者・地域との連携をとおして、開かれた学校づくりを推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標					年度評価（２月１日　現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	入学当初の生徒の学力には大きな幅がある。学力差に応じた学習指導の研究及び単位制を生かした教育課程は不可欠である。 学習習慣の定着及び学習時間の増加は依然として重大な課題であり、改善に向けて取り組みを検討する。	生徒の学力差に対応する授業展開を研究し、基礎学力の確かな定着と学習意欲を向上させる。	①単位制を生かした選択科目の特色化、多様化を検討し、学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させる取組。 ②授業改善研究等を通して、授業力向上への取組。 ③各年次の日頃の補習授業の実施状況。各教科で資格取得に向けた取組や課題を課すことでの学習習慣の定着化。	①教育課程委員会による教育課程の改編。 （昨年度：年次を超えた選択科目の設定） ・少人数、習熟度別授業等の成果の検証。（数学Ⅰ習熟度別授業、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ少人数授業等） ②未来を拓く学び事業研究員の活動。（昨年度４名） ・オープン授業週間等の授業改善への取組。 （昨年度研究発表８名、校内研修会２回等） ③基礎力診断テスト、資格・検定試験での合格数。（昨年度各種検定400名以上合格） ・学校評価アンケートによる学習時間の増加。（昨年度1.6ptsｱｯﾌﾟ）			
2	生徒一人一人が抱える課題は年々多様化している。生徒の状況把握と実態に応じた指導・支援を行っていく。 丁寧かつ継続的な生徒指導により生徒に安心安全な生活環境を提供している。基本的生活習慣の定着を目指した指導は継続していく。	将来を見据えた高校生活を送ることができるように指導・支援をしていく。また、個々の生徒の実態を把握し、丁寧に支援する。	①基本的生活習慣の確立のため生徒との心の会話を大切にし、人間力を育成。 ②「在り方生き方教育」「人権教育」を効果的な実施と心豊かな生徒の育成。 ③生徒面談や校内支援委員会、地域の外部機関等の活用により個々の生徒の的確な把握と実態に合わせた指導、支援。	①基本的生活習慣の確立のため、生徒との信頼関係を構築し、指導対象者の減少。 （昨年度、３３pts減少、朝のあいさつ運動等） ②適切な時期の実施と内容を充実。（昨年度３回、内容をLGBT、薬物乱用防止等、工夫して開催） ③外部機関の面談による生徒の状況把握とその情報を教員間で共有、支援。（昨年度ｶｳﾝｾﾗｰ、ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ等支援46件、特別支援コーディネーター４回） ・校内支援委員会の効果的な活用（昨年度５回実施） ・介助支援員との連携を維持（昨年度、７６日）			
3	進学希望者は年々増加、就職希望者は企業・公務員と混在している。進路意識を向上させるため、ガイダンス、インターンシップ等のキャリア教育を体系的に実践していく。 進路実現に向けて、１年次から丁寧な面談等を行い、生徒自身が将来の姿をイメージできるよう支援していく。	主体的な進路選択とその実現に向けた実力を育成する。 学力向上と進路実現との関連性をさらに強めていく。	①体系的な進路指導計画に基づいた各種行事の充実。 ②面接及び作文指導、模試、資格取得等の指導により個々の生徒の進路実現を支援。 ③学力向上と進路実現を結び付け、総合的な探求の時間をさらに活用し、進路指導・支援の充実。	①生徒の学校評価アンケートの進路指導項目の評価維持。 （昨年度A及びB評価95.7%） ②進路実現のための取組内容の工夫と充実。各年次において進路行事、生徒へのアプローチを工夫。（昨年度、進路ガイダンス４回、ＰＴＡ模擬面接２回　職業人講話２回・インターンシップ（昨年度インターンシップ３０名１９社） ③進路決定率の維持。（週１回看護公務員補習実施）昨年度進路決定率83.5%　１月現在　大学一般受験者増加			
4	保護者・地域の学校への理解と協力は進んでいるのでさらに継続して取り組む。 保護者アンケートでは、学校へのご意見が増加しており関心が高まっている。さらに要望等を検討し、学校運営改善に取り入れる。 ＰＴＡ等との連携を深める場を作り、保護者と共に生徒を育てる取組を進める。	開かれた学校づくりを実践する。 外部評価を学校改善により活用する。 保護者との連携をより深める。	①学校行事の広報活動の強化と情報発信の工夫及び地元外部機関との連携。 ②学校評価ｱﾝｹｰﾄの分析により、学校の課題の改善。 ・学校評価懇話会等の充実とその評価をさらに活用。 ③ＰＴＡ活動のさらなる充実と教員との連携を強化。	①ホームページの充実と迅速な更新を行い、中学生・保護者・地域等への積極的な情報発信と連携を検討する。 （昨年度アクセス数月平均10800件） ・新座市役所、社協、警察等との連携（昨年度１１回） ②学校評価アンケートの保護者回答率４０%以上を目標。 （昨年度回答率35.8% 8.2 ptsアップ　要望３１件） ・学校評議員会、学校評価懇話会年２回実施（６月２月） ③ＰＴＡ活動の充実、（ＰＴＡ広報誌年３回発行　常任理事会６回理事会６回　ＰＴＡ行事１１回） ・研修旅行の工夫と交流行事の充実（昨年度、研修会参加者２８名、教職員との交流会等の実施　年１１回）			

学校関係者評価
実施日　令和　年　月　日
学校関係者からの意見・要望・評価等